

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	女性語について：文末表現を中心として〈卒業論文要旨〉
Author(s)	増田, 和子
Citation	広大言語, 11 : 20 - 21
Issue Date	1971-12-06
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046368
Right	
Relation	



日本語構文の中に英語の単語を使う。

tail ここね。

ぽく baby よ。

baby ちゃん ここね。

'71 1/19
1/19
1/26 etc.

「ここ」 + 英語

ここ open .

you ここ .

ここ ouch .

'71 1/26
1/19
1/19 etc.

英語の単語に接尾辞又は文末詞をつける。

baby ちゃん。

● eddy ちゃん。

one ね。

'71 1/19
1/19
1/26 etc.

第Ⅲ章 I 児の言語生活の発達

1月12日までは、数と色と動物の名前を言う以外は、アッアと強く笑うのみであった。

1月19日から、なんとか筆者との対話がはじまった。

I 児と比較して気付いたことは、E 児が全体として、又音として言語をまず捕えているのに対して、I 児は音も一音一音捕えようとし、意味をもったものとして日本語を捕えていることがわかる。

その他気づいたことは、I 児は文字に非常に興味をもっているが、E 児は全くもっていないことである。

参考文献

矢田部 達郎 著

大久保 愛 著

村田 孝次 著

早川 勝広 著



児童の言語

幼児言語の発達

幼児の言語発達

幼児の言語発達

比叡書房

東京堂出版

培風館

等

女性語について

(文末表現を中心として)

増田 和子

(序論) 女性語に対する考え方に ~~二つ~~ 2つあって、1つは女性語を女性の用いる言葉の中で男性と違った単語のみに限ろうとする見方であり、他の1つは、女性の用いる言葉全体について言おうとする考え方である。しかし、ここでは、女性語を後者のように女性の用いる言葉全体であ

るとするのが良いとして、現代の女性語について述べている。

(本論) その方法として、明治・大正末から昭和の初め、昭和二十年以後の各時代から、2, 3の作品を選び、その中から、中流階級位の女主人公たちが話す文章の文末表現を抽出し、それを、文法的・時代的に調べている。

(結論) 女性の使用している文末表現をまとめてみると「の」、「よ」、「わ」、「ね」、「のよ」、「もの」、「のね」、「ねえ」、「だわ」、「わね」、「かしら」などが多く、比較的新しい表現として、「もののね」、「わよ」、「ことね」、「なのね」、「よね(え)」がみられる。そして、これらの中でも特に、「の、よ、わ、ね」など、最も基本的な文末表現は、明治・大正・昭和にわたって、女性の間で多く使われていて、これらは、将来も消えていくことはないだろうが、それ以上に合成語的なものの使用が多くなるであろう。

(参考文献)

- | | | |
|-------------------|---------|-------------|
| ○ 不如 婦 | 徳 富 蘆 花 | (角 川 文 庫) |
| ○ 婦 系 図 | 泉 鏡 花 | (角 川 文 庫) |
| ○ 門 | 夏 目 漱 石 | (角 川 文 庫) |
| ○ 伸 子 | 宮 本 百合子 | (新 潮 文 庫) |
| ○ 女の一生(上・下) | 山 本 有 三 | (新 潮 文 庫) |
| ○ 氷 点 | 三 浦 綾 子 | (朝 日 新 聞 社) |
| ○ 贈 る 言 葉 | 柴 田 翔 | (新 潮 社) |
| ○ 婦人語の研究 | 真 下 三 郎 | (東 京 堂 出 版) |
| ○ 国語文化講座第5巻 国語生活篇 | | |
| 婦人の言葉 | | (朝 日 新 聞 社) |
| ○ 話し言葉の文法 | 三 尾 砂 | |
| ○ 文章読本 | 角 野 喜 六 | |
| ○ これからの敬語 | | (語学教育研究所) |
| ○ 女性らしい話し方 | 鈴 木 健 二 | (梧 桐 書 院) |
| ○ 女性語辞典 | 真 下 三 郎 | (東 京 堂 出 版) |
| ○ 日本女性史 | 井 上 清 | (三 一 書 房) |
| ○ 国語助詞の研究 | 此 島 正 年 | (桜 楓 社) |
| ○ 国語学辞典 | | |
| ○ 日本文法 口語篇 | 時 枝 誠 記 | (岩 波 全 書) |
| ○ 国語文体論序説 | 桑 門 俊 成 | |
| ○ 近代文学鑑賞講座 第12巻 | 山 本 有 三 | (角 川 書 店) |
| ○ 文体論入門 日本文体論協会篇 | | |
| ○ 文法 4月号 品詞認定のきめて | | (明 治 書 院) |
| (文責 中村真砂子) | | |